

お台場旧防波堤（鳥の島 2 島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（6 月）報告書

平成 27 年 6 月 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防（通称鳥の島） 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成 27 年 6 月 22 日（月）	8 : 18 ~ 14 : 00	曇のち晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8 ~ 10 倍程度の双眼鏡や倍率 20 ~ 60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2） ~ （4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。

（1） 船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。

（2） ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1 ~ 2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。



写真1 各調査手法における調査風景



図1 調査地点図

5. 調査結果

- 現地調査の結果、6目15科19種の鳥類を確認した（表2）。
- 確認種の多くは水域やその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやカワウ、アオサギ、ウミネコなど10種を確認した。一方、島内には樹林環境が見られるが、森林やその周辺に生息する種は少なく、シジュウカラやヒヨドリ、メジロ、カワラヒワの4種を確認した。そのほか、都市部に普通に生息するハシブトガラスやツバメ、ムクドリ、スズメ、ドバトも確認した。
- 重要種は、ダイサギやコサギ、イソシギ、コアジサシの4種を確認した（表2）。ダイサギ及びコサギは、第六台場で繁殖しており、第六台場を往来する際に鳥の島上空や周辺海域を飛翔する個体を確認した。イソシギは海辺の岩場や消波ブロックで採餌する個体を、コアジサシは周辺海域で飛翔や採餌する個体を確認した。
- 島内に生息する種のほとんどはカワウであり、船上センサスでは236個体を確認した（表3）。また、カワウの巣を鳥の島東側で100巣、西側で73巣（古巣を含む）

を確認したほか、巣内雛や多数の幼鳥も見られ、繁殖を確認した。

- スズメの餌運びを数回確認したが、お台場海浜公園方向へ運んだことから、鳥の島を採食地として利用していると考えられる。
- アオサギやシジュウカラ、ハクセキレイの幼鳥、シジュウカラのさえずりを確認したが、島内での繁殖状況は不明である。

表 2 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	鳥の島		重要種選定基準			
				夏季		①	②	③	④
				L1	L2				
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○				
2	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
3	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○				
4			ダイサギ	○	○				VU
5			コサギ	○	○				VU
6	チドリ	シギ	イソシギ	○	○				VU
7		カモメ	ウミネコ	○	○				
8			オオセグロカモメ		○				
9			コアジサシ	○	○		際	VU	EN
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○				
11		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
12		ツバメ	ツバメ		○				
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ		○				
14		メジロ	メジロ		○				
15		ムクドリ	ムクドリ	○					
16		スズメ	スズメ	○	○				
17		セキレイ	ハクセキレイ		○				
18		アトリ	カワラヒワ	○	○				
19	ハト	ハト	(ドバト)	○	○				
計	6 目	15 科	19 種	14 種	18 種	0 種	1 種	1 種	4 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は以下の通りである。

① 文化財保護法(昭和25年、法律第214号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号;平成23年改訂)

内:国内希少野生動物 際:国際希少野生動物

③ 「第4次レッドリストの公表について」(平成24年、環境省)における掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧種 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

④ 「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」

(平成25年、東京都)における区部の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

注3. ()内の種は外来種を示す。

表 3 船上センサス結果（夏季）

No.	目名	科名	種名	船上センサス		合計 個体数
				L1	L2	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	3	4
2	カツオドリ	ウ	カワウ	160	76	236
3	ペリカン	サギ	アオサギ	19	15	34
4	チドリ	シギ	イソシギ	1		1
5		カモメ	ウミネコ	3		3
6			コアジサシ	2		2
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2	4
8		シジュウカラ	シジュウカラ	1		1
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ		1	1
10		スズメ	スズメ	5	1	6
計	5 目	9 科	10 種	194	98	292

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 ラインセンサス結果（夏季）

No.	目名	科名	種名	ラインセンサス		合計 個体数
				L1	L2	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	2	4
2	カツオドリ	ウ	カワウ	113	25	138
3	ペリカン	サギ	アオサギ	5		5
4	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2		2
5		シジュウカラ	シジュウカラ		1	1
6		スズメ	スズメ	16	5	21
計	4 目	6 科	6 種	138	33	171

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果（夏季）

No.	目名	科名	種名	定点観察調査				合計 個体数
				P1	P2	P3	P4	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	2		1	4
2	カツオドリ	ウ	カワウ	26	25	40	71	162
3	ペリカン	サギ	アオサギ	1		1	3	5
4			ダイサギ		1		2	3
5			コサギ				2	2
6	チドリ	カモメ	ウミネコ		1	1	1	3
7			オオセグロカモメ			2		2
8			コアジサシ	2			1	3
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス		2			2
10		シジュウカラ	シジュウカラ		1	1		2
11		ツバメ	ツバメ			3	3	6
12		メジロ	メジロ				1	1
13		スズメ	スズメ	6	6	8	3	23
14		セキレイ	ハクセキレイ				1	1
15		アトリ	カワラヒワ	2	1			3
計	5 目	11 科	15 種	38	39	56	89	222

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

 カルガモ	 カワウ(雛)
 イソシギ(重要種)	 ウミネコ
 オオセグロカモメ	 コアジサシ(重要種)
 ハシブトガラス	 シジュウカラ
 スズメ	 カワラヒワ

写真2 鳥の島で確認された主な鳥類